

**たたき台**

(R.6.7.25時点)

# 次期熊本市生涯スポーツマスタープラン 骨子案

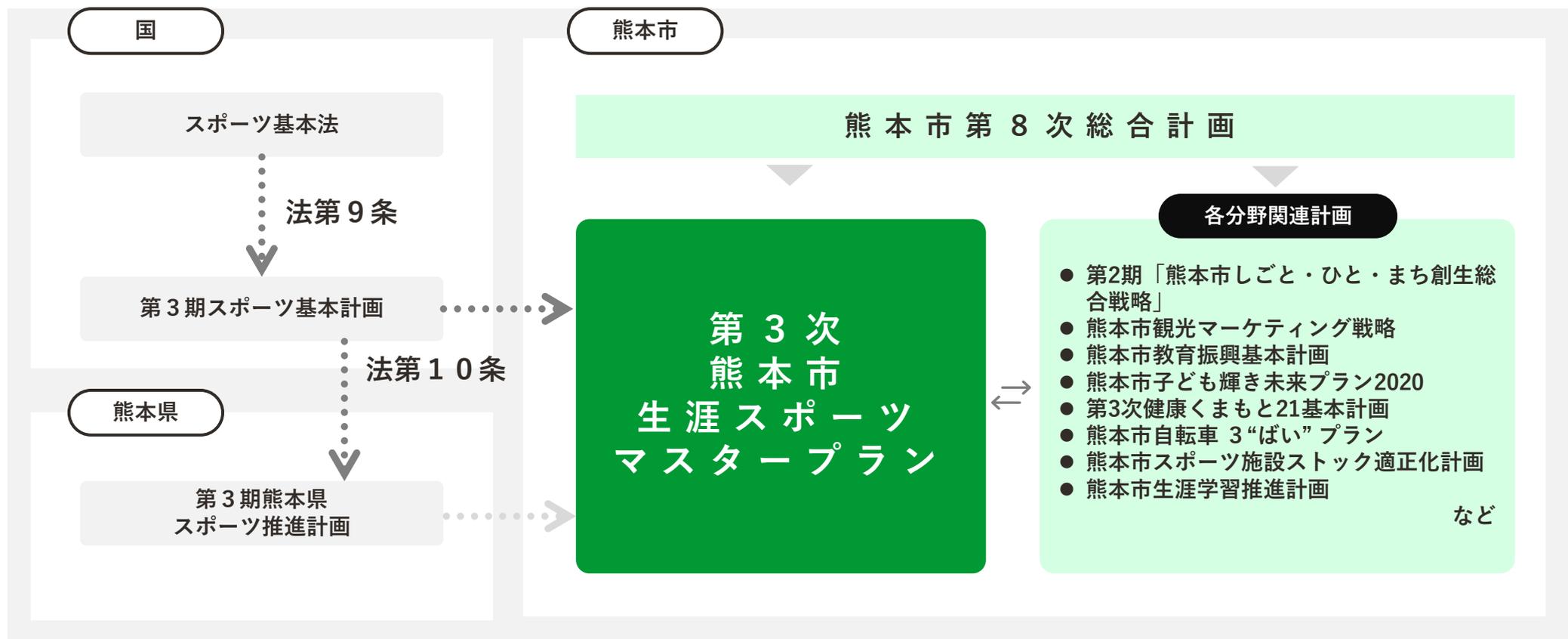
令和6年7月  
経済観光局

# 01 策定の趣旨

- 本計画は、国の第3期スポーツ基本計画及び県の第3期スポーツ推進計画を反映し、**本市スポーツ行政・スポーツまちづくりの指針として策定**するものです。
- 本市におけるまちづくりの原点は、「地域」、そして、そこに暮らす「市民」であり、これまでも甚大な被害をもたらした平成28年(2016年)熊本地震(以下、「熊本地震」という。)の混乱の中においても、**行政をけん引する形で市民が自然発生的に活動し、地域やコミュニティで連携しながら、困難を乗り越えてきました。**
- そのようななかで、**“スポーツ”も熊本地震からの復興及び創造的復興の大きな支え**の一つとなっており、昨年度には、本市を拠点とする熊本ヴォルターズが、当時大きな被害に見舞われた益城町総合体育館で約7年振りの公式戦開催するなど、着実に復興を遂げる姿は、市民に大きな勇気を与えました。
- また、5類移行により収束傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症蔓延期には、まるで「不要不急」であるかのように扱われた“スポーツ”による人と人、地域やコミュニティとのつながりが制限されたことによってかえって、**心豊かな生活にスポーツが不可欠な存在であることを再認識する契機**となりました。
- このように、本市を取り巻く情勢は目まぐるしく移り変わり、日々様々な課題が立ちはだかりますが、2020東京オリンピックの開催による機運の高まりや、新型コロナウイルスの流行による活動制限、**スポーツを取り巻く環境の大きな変化への対応のために現行の計画を見直す**ものです。
- また、**“スポーツの振興”のみならず“スポーツによるまちの振興”**、すなわち「スポーツの力を活用した上質な生活都市の実現」にも寄与する計画とします。

## 02 計画の位置付け

- 本計画は、スポーツ基本法に基づき、国のスポーツ基本計画を参酌し、本市の最上位計画である熊本市第8次総合計画との整合を図り、本市スポーツ行政・スポーツまちづくりの指針として策定するものです。
- また、本市の各分野における関連計画との連携を図ります。

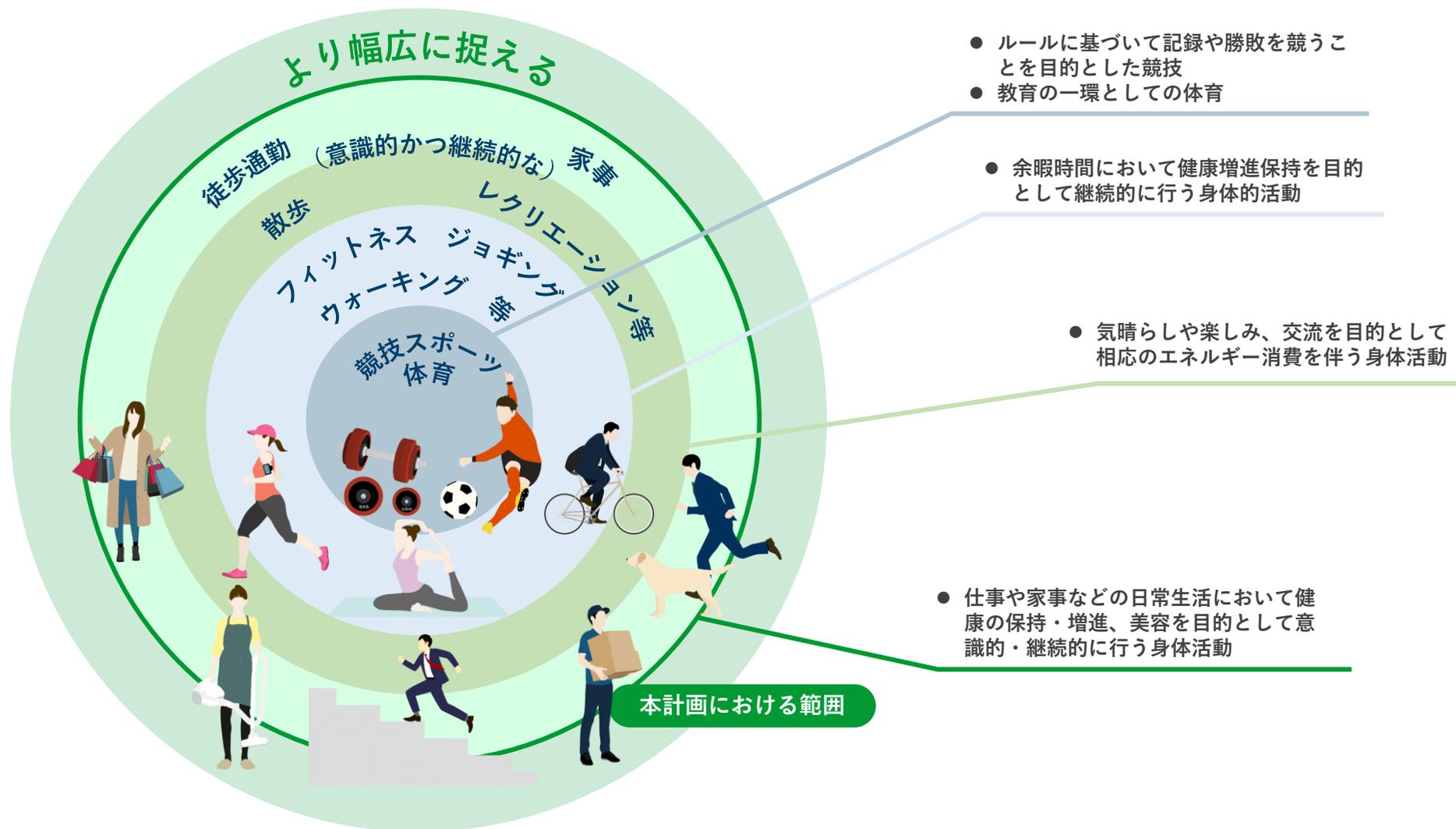


## 03 計画期間

- 令和7(2025)年を始期とした8年間の計画とします。

# 04 スポーツの範囲

- 本計画では、野球やバスケットボール、サッカーなどの競技種目やレクリエーション活動のほか、健康のための散歩や体操などの軽い運動、さらに徒歩や自転車による通勤や買い物などの日常生活における活動など、意識的・継続的に行う様々な身体活動のことを「スポーツ」として幅広く捉え、これまでスポーツに縁のなかった方にも気軽に親しんでいただくことを目指します。



# 05 現計画のふりかえり

● 現計画では、「みんなで参加 いきいき スポーツ交流都市くまもと」を目指し、5つの基本方針に従い、以下のような取組を展開してきました。

01

## スポーツ機会の充実

### 地域スポーツ活動の支援

#### 総合型地域スポーツクラブの育成・支援

→ 総合型地域スポーツクラブの立ち上げ支援やクラブ間の情報交換や交流機会を創出することで活動内容の充実に取り組みました。

項目	H24	R5	増減
クラブ数	19クラブ	23クラブ	+4クラブ
クラブ員数	6,109人	7,528人	+1,419人

### スポーツを通じた健康・体力づくりの推進

#### 熊本城マラソンの開催

→ 県内外から多くのランナーが参加する熊本城マラソンを開催しました。



熊本城マラソン2024 参加者数 13,122人 (フルマラソン)

02

## スポーツ競技力の向上

### スポーツ関係団体との連携

#### スポーツ関係団体との連携

→ スポーツ技術の向上を図るため、競技団体と連携して大会の開催や指導者養成に取り組みました。



#### スポーツ顕彰制度の活用

→ スポーツ活動において著しい功績を残した競技者等に対してスポーツ奨励賞を贈呈しました。

項目	件数	内訳
R5年度スポーツ奨励賞	16件	個人14件 団体2件



03

## スポーツコンベンションの推進

### 国際・全国レベルのスポーツ大会等の開催誘致

#### 各種スポーツ大会等の誘致、受入

→ 県や競技団体等と連携し、様々な国際スポーツ大会を誘致・開催しました。

開催時期	大会名
R2.10月	ラグビーワールドカップ 2019™熊本開催
R2.11-12月	2019女子ハンドボール世界選手権大会
R5.8月	世界マスターズ水泳選手権 2023九州大会(熊本市：水球)
R5.11月	熊本マスターズジャパン (バドミントン)



04

## スポーツ情報の提供

### スポーツ情報システムの充実

#### 熊本県・市町村公共施設案内予約システムの運用

→ 県と共同運用している予約システムについて、より利便性の高い単独システムを構築しました。



令和6年(2024年)12月より  
新予約システムを運用開始

#### SNSを活用したスポーツ情報の提供

→ LINEやX (旧Twitter)、InstagramなどSNSを活用し、スポーツに関する情報をタイムリーに発信しました。



05

## スポーツ施設の整備・機能充実

### スポーツ施設の機能充実・利便性の向上

#### スポーツ施設の整備改善

→ 「熊本県スポーツ施設ストック適正化計画」を策定し、施設の適切な維持管理を行うことで、市民が安心してスポーツを楽しむことができる環境を確保しました。



→ 全ての屋内施設LED化を完了しました。  
→ また、トイレ洋式化など、スポーツ施設の機能充実を継続して進めています。

項目	施設数
LED化完了屋内施設数	33施設
トイレ洋式化完了施設数	29施設

# 06 めざす姿

- スポーツの力を活用して上質な生活都市の実現を目指していくうえで、前述にあるように市民の主体性によって地域やコミュニティのつながりで困難を乗り越えてきました本市の特性を活かし、以下のコンセプトに沿って各種施策を展開します。

## 熊本市第8次総合計画 めざすまちの姿（≒都市ブランド）

上質な  
生活都市

- 支え合いながら心豊かで**幸せ**な暮らしが営まれる
- 災害に強くだれもが安心して暮らせる
- 自分たちが暮らすまちに**誇り**や**夢**、**希望**を抱ける
- **多様**な生活を楽しんでいる

住み続けたい  
住んでみたい  
訪れたい

▲ スポーツによってさらに上質な生活都市の実現に寄与

### 第3次熊本市生涯スポーツマスタープラン 将来像を考えるうえでのキーワード

- # **自発性**（能動性・積極性・主体性）
- # **つながり・絆**（人・まち・未来）
- # **基盤**（元気・幸せ・誇り・夢・希望）  
等からワーディング



国の定義

参酌

- スポーツは、「する」「みる」「ささえる」という様々な形での参画を通して、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」に根源を持つ身体活動
- その身体活動自体に、心身の健全な発達、健康・体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心などの精神の涵養等のあらゆる「**自発的**」な意思に基づいて行われるもの

# 07 基本方針

- めざす姿の実現に向けて、以下の基本方針に基づいて、各種施策を展開します。
- 3つの基本方針の中でも、とりわけ本市の“つながりの強さ”等の特徴を鑑み、基本方針1「スポーツを 選び つながる」を最も本市にとって重要な方針として位置づけます。

将来像案

誰もがスポーツを“選べる”くまもとで  
みんなからもっと“選ばれる”くまもとへ  
Choice makes 3

整理したキーワード「自発性」は、「自ら選択すること」と換言できます。熊本市が、誰もが自発的にスポーツを“えらぶ”ことのできる都市であることで、市民が健康や地域コミュニティとのつながりを強めることができ、ひいては「上質な生活都市」として市内外の人々から選ばれる、本計画のめざす姿としてそのような将来像を描きます。

## Connection

基本方針

1 スポーツを選び つながる

重点

## Creation

基本方針

2 選べるスポーツを  
つくりはぐくむ

## Continuable

基本方針

3 誰もがスポーツを選び  
続けられる

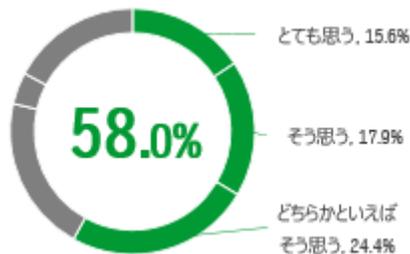
# 08 基本方針ごとの現況

## 基本方針1 スポーツを選びつながる

近年、熊本地震やコロナ禍と言った未曾有の事態に対して、市民の“つながり”の強さで立ち向かってきた本市において、スポーツをフックに更なるつながりを創出し、より強固にしていくことで、上質な生活都市の実現にアプローチします。特に、本市には校区体育・スポーツ協会という全国においても特徴的な推進体制を備えていることから、これらを活かし、校区や区の小さな単位から、スポーツによる交流を創出し、全市的なつながりにつなげ“まちづくり”に昇華していくとともに、ひいては市外、県外、国外へと交流の対象を広げ、広く認知されるワンランク上の上質都市を目指します。

### スポーツによるコミュニティの広がり

約6割の市民が、スポーツを通して地域・職場・学校等でコミュニティが広がった(仲間が増えた)と感じています。

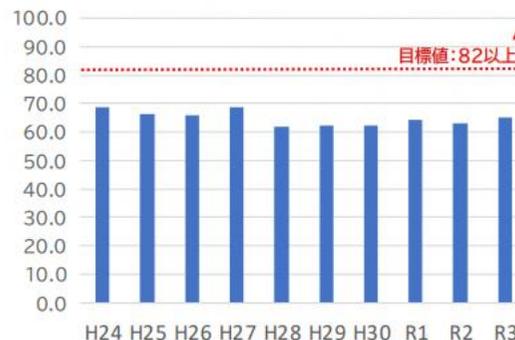


一方で、普段の活動の実態としては、約7割が個人での実施、スポーツ行事に参加したことがない人が約5割と、スポーツによるつながり創出のさらなる余地があります。

### 自ら健康づくりに取り組んでいる市民

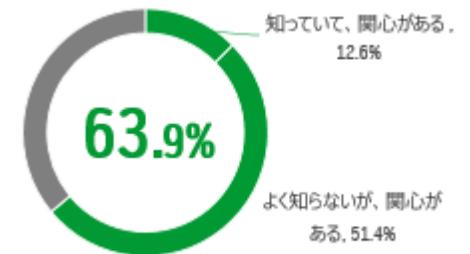
自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合は10年スパンで見ると微減傾向であり、健康くまもと21で掲げる目標水準に達していない状況です。

市民のスポーツ活動の動機としても、スポーツ振興の効果として、心身の健康に関する回答が上位に挙がっています。



### 障がい者スポーツに関する認知・関心

障がい者スポーツについて、認知度は未だ低いものの、決して少なくない関心が示されています。



関心のきっかけとしてはパラリンピック等大会の観戦が55%と高く、今後の国内において予定されている国際的な障がい者スポーツ大会ラッシュ※によりさらに関心が高まることが想像されます。

※世界パラ陸上(2024)、デフリンピック(2025)、アジアパラ(2026)、ワールドマスターズ(2027)

# 08 基本方針ごとの現況

## 基本方針2 選べるスポーツを つくり はぐくむ

本市の高いスポーツ実施率を今後も高めていくために、関心層に対する実行支援策を講じていくとともに、既にスポーツに取り組む層においても今後持続的に取り組んでいけるような持続支援策や、より頻度や強度を高められるよう、多様な主体の事情や嗜好に合わせた柔軟なスポーツ環境を提供します。

また、指導者等スポーツを支える人材についても本市のポテンシャルは決して小さくなく、今後も意欲ある人材の活躍の場をしっかりと確保します。このような市民のスポーツ機会を創出する各種ソフト施策について、デジタル技術等を活用しながら効果的に進めます。

### スポーツ実施状況

本市のスポーツ実施率は、56.8%と、現行計画において令和3年時点での目標値として掲げていた60%には満たないものの、国の直近の実施率が52.2%であることを鑑みると、高い水準にあると言えます。また、実施層の約4割が習慣化しています。



非実施層においても約7割が「始めたいという思いはある」と前向きな姿勢を示しています。

### スポーツ人材のポテンシャル

スポーツの指導やイベントへの協力等、スポーツボランティア活動に参画した市民の割合は17.3%と高い水準にあります。

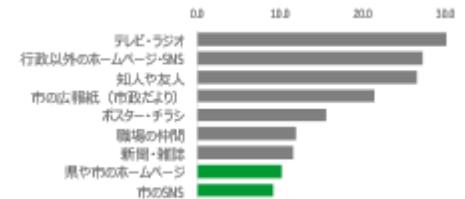


また、17.3%のうち約4割が、本市の既存事業「スポーツリーダーズバンク」について、知らなかったものの、関心を抱いています。

引き続き競技団体へのヒアリング等により実態の把握を進めます。

### デジタル技術活用

市民のスポーツに関する情報源として、市のデジタル媒体があまり活用されていない状況にあります。



他方、求められている情報として、「スポーツ施設の予約状況」や「家族連れで楽しめるスポーツ施設情報」等行政として発信すべき内容のニーズが高く、施策の満足度評価でも満足度を不満が上回る評価となっています。

# 08 基本方針ごとの現況

## 基本方針3 誰もがスポーツを選び続けられる

アンケート結果をみると本市は公共スポーツ施設の質や量に関して大きな不満等はみられません。今後も引き続き質・量ともに市民ニーズに応えられるよう計画的にスポーツ環境を確保・提供するとともに、性別、年齢、障害の有無、競技レベル、経済的事情、地域事情等、それぞれが置かれた状況によって、スポーツに取り組むことを諦めたり、望まずに途中で離れたりすることがない、全ての人がスポーツにアクセスできる社会の実現や機運の醸成を目指します。

### スポーツをする場所

身近なオープンスペースに次いで、公共スポーツ施設がしっかりと利用されています。

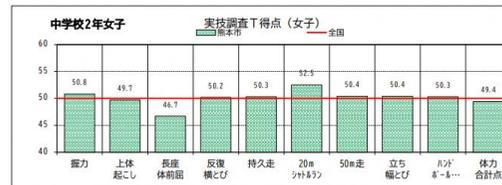
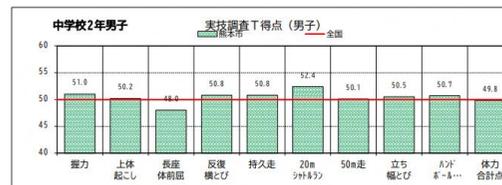


公共施設利用における満足度は、不満が極めて少なく、一定の評価を得ており、施設数に関しても、約8割の回答者が「ある程度整備されている」と評価しています。



### 本市における競技スポーツの動向

全国体力・運動能力テストの結果をみると、小中学生ともに多くの項目でTスコア全国平均以上となっています。



また、高校生年代では、剣道において毎年優秀な成績を残している他、トップアスリート層でも東京2020、北京2022に数多くの本市ゆかりのアスリートが出場しました。

### スポーツの阻害要因

スポーツの阻害要因として、「嫌い」「面倒」「他にやりたいことがある」等の根本的な理由よりも「時間がない」「お金がない」等、条件が合わないことによる理由が上位を占めており、習慣化に必要な条件としても同様の構図となっています。



その他、児童学生調査や障がい福祉団体調査から、「けが・障害や不適切な指導等の本人が望まない理由でスポーツを親しむ機会を失ったり、制限されたりすることがないか」等について調査します。

# 09 施策体系

将来像		基本施策（ ）内は関連する国の施策	主な事業	
			原課所管事業	他課連携事業
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">           誰もがスポーツを“選べる”くまもとで            みんなからもっと“選ばれる”くまもとへ         </p>	<p>1</p> <p><b>重点</b></p> <p>スポーツを 選び つながる</p>	1-1 スポーツで地域がつながる (地域において気軽にスポーツに親しめる機会の創出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合型SC</li> <li>● 各種団体助成事業</li> </ul>	
		1-2 スポーツにより市民が健康とつながる (スポーツによる健康増進)		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯学習課事業</li> <li>● 健康づくり推進課事業</li> </ul>
		1-3 スポーツによる多様な立場の市民がつながる (スポーツを通じた共生社会の実現)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会体育整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障がい福祉課事業</li> </ul>
		1-4 スポーツにより全国・世界とつながる (スポーツの国際交流・協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハイデルベルグ交流</li> <li>● バドミントン国際大会</li> </ul>	
		1-5 スポーツにより地域の稼ぎにつながる (スポーツの成長産業化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プロスポーツ支援</li> </ul>	
	<p>2</p> <p>選べる スポーツを つくり はぐくむ</p>	2-1 誰もがスポーツに親しめる機会をつくる (多様な主体が参画できるスポーツの機会創出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合型SC <b>再掲</b></li> <li>● 市民スポーツフェスタ</li> <li>● 県民体育祭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育委員会事務局事業</li> <li>● 障がい福祉課事業</li> </ul>
		2-2 スポーツ活動を支える人材をそだてる (スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合型SC <b>再掲</b></li> <li>● 社会体育振興 <b>再掲</b></li> <li>● 各種団体助成 <b>再掲</b></li> </ul>	
		2-3 デジタル技術活用によりスポーツ界をそだてる (スポーツ界におけるDXの推進)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 窓口一元化</li> <li>● 新予約システム</li> </ul>	
	<p>3</p> <p>誰もが スポーツを 選び 続けられる</p>	3-1 誰もがスポーツに親しめる場をつくる (スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校夜間</li> <li>● 社会体育整備 <b>再掲</b></li> <li>● 指定管理 等</li> </ul>	
		3-2 誰もがトップレベルを目指せる環境をつくる (国際競技力の向上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツ基金</li> <li>● 各種団体助成 <b>再掲</b></li> <li>● プロスポーツ <b>再掲</b></li> </ul>	
		3-3 誰もがスポーツを続けられるための安全や安心をつくる (スポーツを実施する者の安全・安心の確保)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公設維持</li> </ul>	